

番号	5	令和3年度公共事業再評価調書		担当課名 道路整備課		
事業名	道路改築事業		事業主体	静岡県		
箇所名	いっぽんけんどう やまなしいちのみやせん 一般県道 山梨一宮線		市町名	周智郡森町		
事業採択年度	平成29年度		計画期間	平成29年度～令和8年度		
用地着手年度	令和3年度		工事着手年度	令和4年度（予定）		
再評価理由	事業採択（H29）後5年間が経過した時点で継続中					
全体事業費	百万円 950	投資状況 (百万円)	～R1年度 52	R2年度 65	R3年度見込 15	計 132
事業概要	<p>(1) 事業目的 一般県道山梨一宮線は、袋井市山梨から森町円田に至る延長約4.6kmの路線である。本事業は、このうち森町谷中から円田に至る延長約1.1kmの狭隘な現道区間について、都市計画道路「森町袋井インター通り線」の一部をバイパスとして整備を行うものである。</p> <p>本事業により、狭隘な現道区間の通過車両の転換が図られ、歩行者の安全や円滑な交通が確保されるとともに、東名高速道路と新東名高速道路を結ぶ広域道路ネットワークが強化され、災害時等の安定した物流の確保や産業の活性化が期待される。</p> <p>(2) 事業内容 計画概要：延長 1,073m 計画幅員：車道 6.5m（全幅14.5m）車線数 2車線（バイパス）</p>					
事業の必要性等	<p>【視点1】</p> <p>(1) 事業を巡る社会情勢等の変化 ・ 森町の工業製品出荷額は、5年間（H23→H27）で約3割増加している。 ・ 平成30年度には、内陸フロンティア推進区域に指定された付近の工業団地に新たな区画が造成され、企業活動に使用されている。</p> <p>(2) 事業の投資効果 現時点（R3）の分析結果：費用便益比B/C=2.6、経済的内部収益率EIRR=10.6% ・ 総便益（B）23.0億円   走行時間短縮便益 20.0億円、走行経費減少便益 2.3億円   交通事故減少便益 0.8億円 ・ 総費用（C）8.9億円   建設投資額 8.7億円、維持管理費 0.4億円、用地残存価値 0.2億円</p> <p>(3) 事業の進捗状況（令和3年度末見込み） 【事業費】 13.9% 132百万円/950百万円 【用地費】 1.0% 244m<sup>2</sup>/25,550m<sup>2</sup> 【事業量】 0% 0m/1,073m（供用延長） 【工事費】 0% 0百万円/693百万円</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>					
今後の事業の進捗の見込み	<p>【視点2】</p> <p>近年激甚化する豪雨災害等を踏まえ、新たな道路整備が周辺地域へ与える治水上の影響調査と対策検討に期間を要したため、事業期間を令和8年度まで延伸する。今後、バイパス区間の地元説明を引き続き進め、理解が得られた箇所から用地買収及び工事を進めていく。本事業は袋井市と森町を接続する都市計画道路の一端を担うバイパス整備であり、地元の要望が強い路線であるため、事業が進捗する見込みである。</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>					
新たなコスト縮減・代替案等の可能性	<p>【視点3】</p> <p>盛土工に他事業の流用土の有効活用を行うなど、引き続き工事のコスト縮減を図っていく。</p>					
対応方針（案）	<p>(1) 対応方針 本事業を（ <input checked="" type="radio"/> 継続 ・ <input type="radio"/> 中止 ）する。</p> <p>(2) 理由 本事業は、広域的な移動の円滑化や災害時等に安定した物流の確保、地域の交通安全に資するものである。さらに、地元の期待も大きく、事業の投資効果も見込まれ、関係機関の調整が順調など、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。</p>					

一般県道 山梨一宮線

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省 道路局・都市局 平成30年2月)

総括表

I) 総便益 B	23.0 億円
総便益 = [評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] － [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	8.9 億円
総費用 = [当該計画道路の建設投資額] + [当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	2.6
IV) 経済的内部収益率 E I R R	10.6

I) 総便益Bの算出

①各種費用のR12<sup>\*1</sup>の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	838.6	201.7	26.7	1,067.0
整備した場合 B	837.3	201.6	26.7	1,065.6

便益	1.3	0.1	0.0	1.4
A - B	時間短縮便益	経費減少便益	事故減少便益	

- ・「時間便益」：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル（国土交通省）」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

②総便益の算出

供用後50年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	走行時間短縮 便益(億円)	走行経費減少 便益(億円)	交通事故減少 便益(億円)	総便益 (億円)
総便益(R9～R58)	20.0	2.3	0.8	23.0

… B

II) 総費用Cの算出

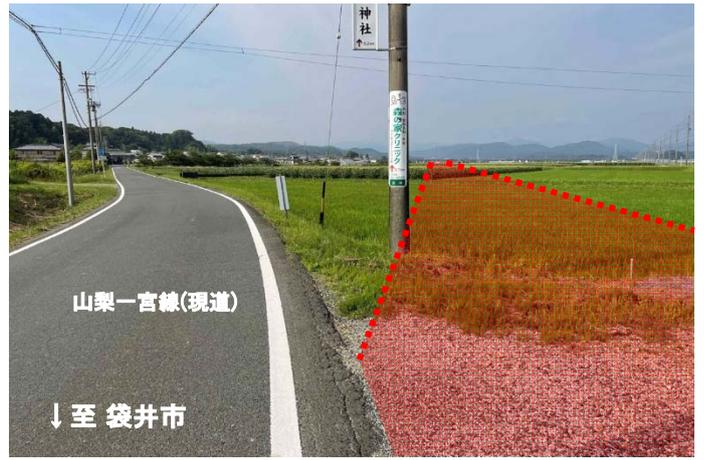
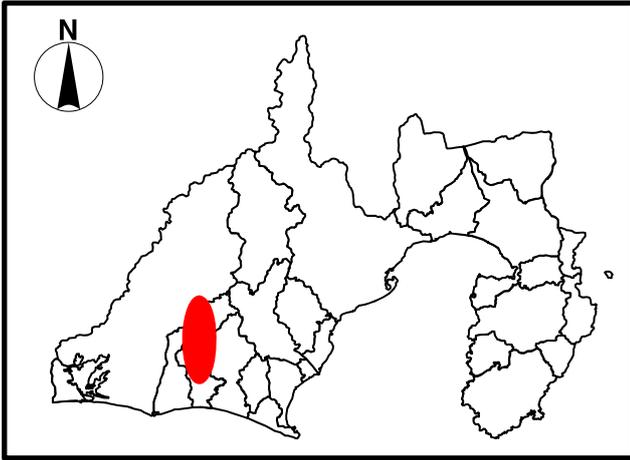
[総費用] = [建設投資額] + [維持管理費] - [用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費用 (万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
9.5	8.7	201.4	0.4	0.2	8.9

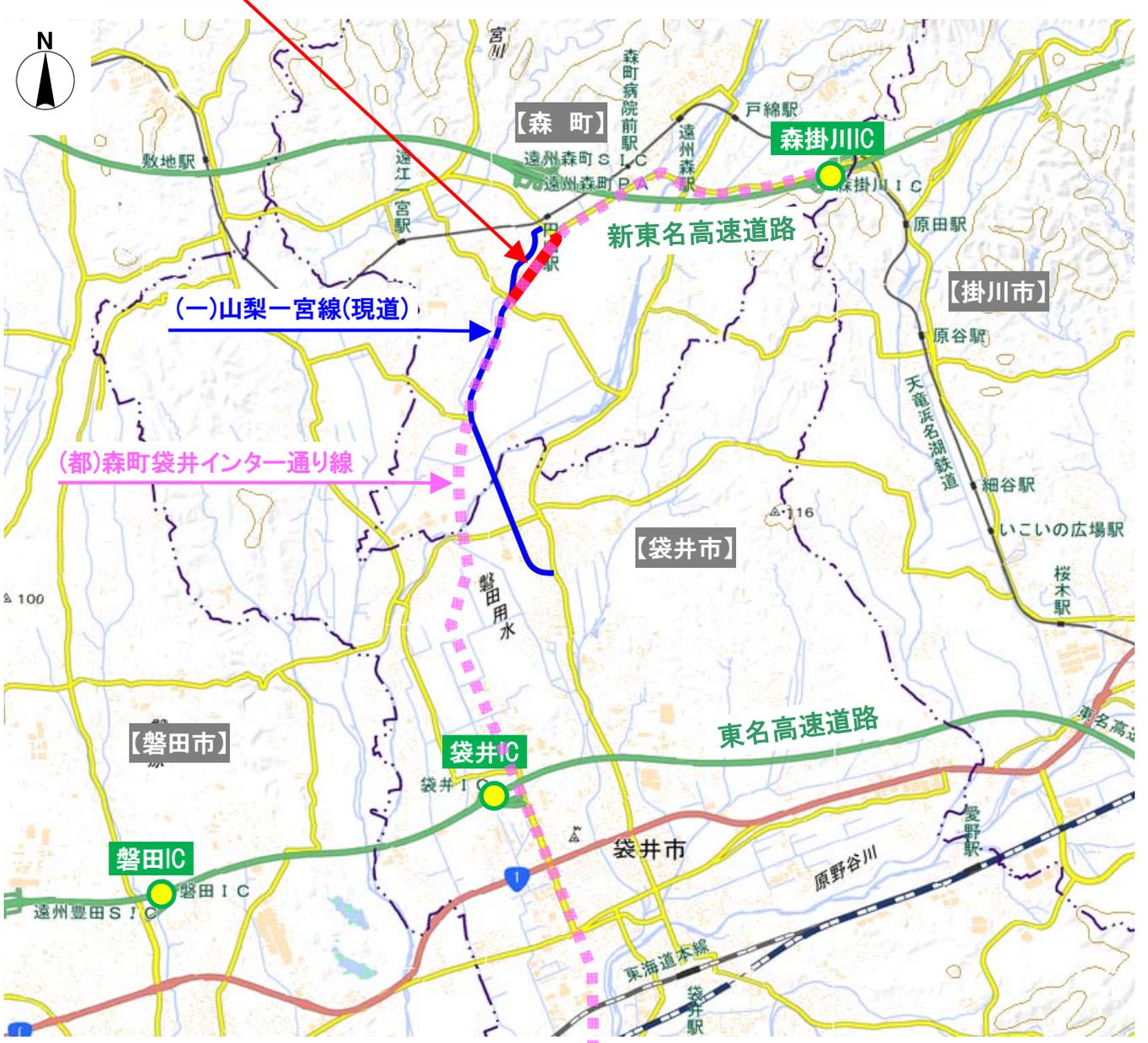
… C

- ・「建設投資額」：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年年次ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

# 位置図



## 一般県道 山梨一宮線（周智郡森町円田地内） バイパス事業区間

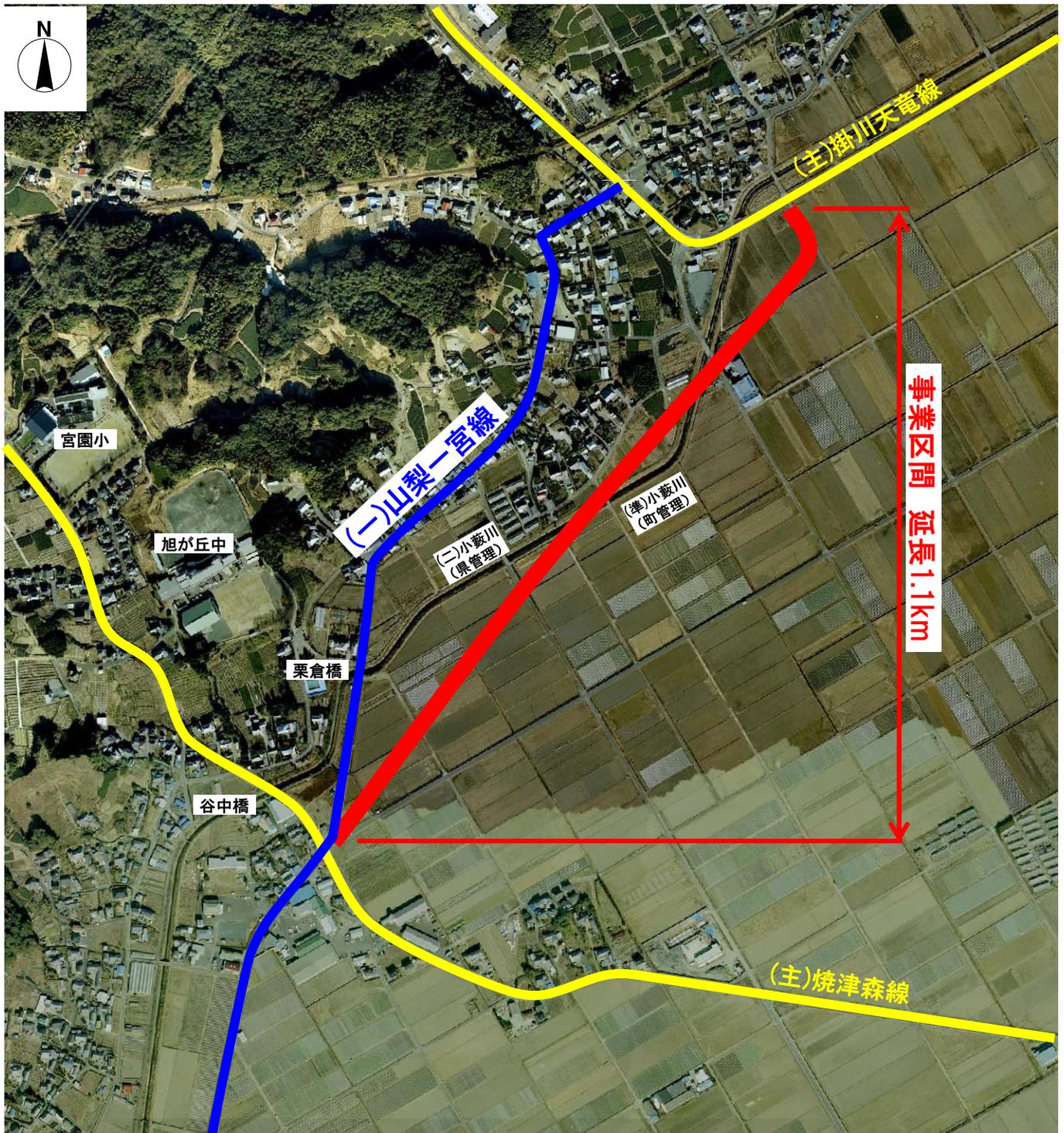
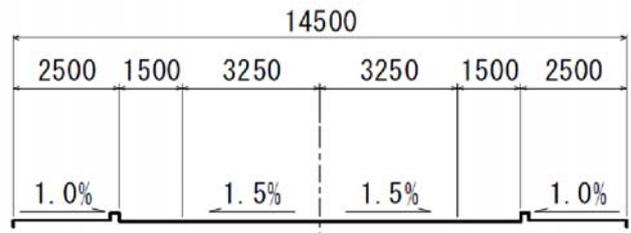


「地理院地図」(電子国土web)をもとに編集・加工作成

## ■ 計画概要

整備延長: L=1.1km  
規格: 第3種第2級  
設計速度: 60km/h  
幅員: 車道W=6.5m  
全幅W=14.5m

## ■ 標準横断図



# ■整備効果

## 【安全で円滑な交通の確保】

### 周辺地域の状況

- ・小学校の通学路であるが、歩道がなく危険な通学を余儀なくされている。
- ・バス路線となっている現道は、狭隘であり車両のすれ違いが困難。

### 期待される整備効果

- ・狭隘な箇所が存在する現道を通過する車両の交通転換が図られ、交通の円滑化と通学路(森町宮園小学校)の安全を確保。
- ・バス運行経路がバイパスに変更となり、安全で円滑なバスの運行を確保。

### 歩道がなく通学時に危険



### 狭隘ですれ違いが困難



バイパス整備に伴い、狭隘な現道を迂回することで通学の安全性が向上し、バスの円滑な運行を確保。

### 現道交通状況(路線バス)



# ■整備効果

## 【広域ネットワークの強化】

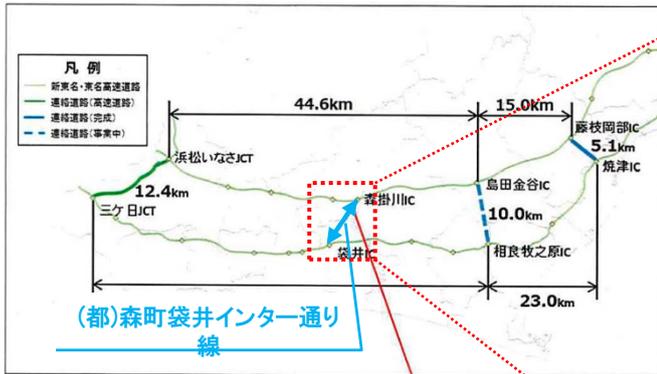
### 周辺地域の状況

- ・中東遠地域には、新東名高速道路と東名高速道路を結ぶ連絡道路がなく、地域間連携の強化や災害時のネットワーク機能の確保が課題。

### 期待される整備効果

- ・高速道路間を接続する(都)森町袋井インター通り線の一部として広域的な移動の円滑化に寄与するとともに、災害時等に安定した物流を確保する。

## ■東名高速道路と新東名高速道路の位置関係



森掛川ICと袋井IC間の直線距離は  
 浜松いなさ～新清水IC間の中で8.1kmと短い区間である

資料：期成同盟会資料(袋井市提供)

## ■周辺道路との位置関係



# 【産業の活性化】

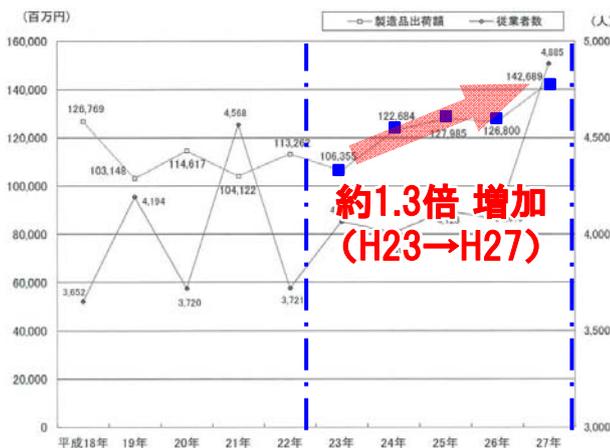
### 周辺地域の状況

- ・広域交通の利便性等を背景に、森町の工業製品出荷額は増加傾向。
- ・森掛川ICや遠州森町SICが近接しており、内陸フロンティア推進区域に位置付けられている工業団地において、企業の設備投資がされている。

### 期待される整備効果

- ・中東遠地域のネットワークが強化され、高速道路へのアクセス性が向上し、物流の効率化が図られることにより、産業の活性化が期待される。

## ■森町の工業製品出荷額



資料：森町統計(森町ホームページ)

## ■中川下工業団地(内陸フロンティア推進区域)



### 高い物流ポテンシャルと充実の補助内容

中川下工業団地は、新東名「遠州森町スマートIC」と東名「袋井IC」の間に位置しており、静岡県が進める内陸フロンティア推進区域に指定されるなど、内陸部への企業移転の受け皿として期待されています。全国有数のものづくり産業の集積地である県西部地域の特性を生かし、現在は、工業専用地域の未利用地などの整備を進めており、新規参入企業に対する補助が充実しています。



資料：森町町勢要覧(森町ホームページ)

# 事業概要

## 前回からの変更点・理由

	前回(H29)	今回(R3)	主な変更理由
①計画期間	H29～R6	H29～R8 (+2年)	近年激甚化する豪雨災害等を踏まえ、新たな道路整備が周辺地域へ与える治水上の影響調査と対策検討に期間を要したため、事業期間を令和8年度まで延伸する。
②全体事業費	950百万円	950百万円 (変更なし)	—